

令和5年度事業報告書

【公益事業】

1. 青少年を対象とする学校講道館の運営

各種学校に認定されている学校講道館で、生徒の技能、習熟度合いに応じて柔道を技術面と態度面から指導した。技術に関する内容は、基本動作、対人技能、試合と段階的に進めた。態度に関する内容は、特に礼法や相手を尊重する態度、公正な態度、健康・安全に関する態度及び柔道の持つ伝統的な行動の仕方など重視し、指導に当たった。

令和5年度の学校講道館の生徒数について、令和3年度、令和4年度を挙げて令和5年度と比較した。

(生徒数の変遷)

学校講道館の生徒数の推移は以下のとおり。

(名)

	令和3年度	令和4年度	令和5年度
柔道普通科	76	72	68
柔道特修科	93	58	53
柔道補習科	4	9	7
柔道研修科	21	22	22
柔道国際科	18	41	54
合 計	212	202	204

2. 講道館道場における柔道の指導教授

(1) 道場における指導

延170名を超す指導員・講師を配置し、各科においては、それぞれの対象の実態をふまえた上で、生徒の心身の発育・発達段階や、能力・適性、興味・関心等の実状を考慮し、柔道技術面だけではなく、礼法や相手を尊重する態度、公正な態度、柔道の持つ伝統的な行動の仕方等を重視して修行者の指導に当たった。

(指導員・講師)

道場における修行者の指導を適切に行うため、道場指導部においては、鍊成部指導員、成年部指導員、女子部指導員及び大阪道場指導員を選任、学校講道館では少年部講師、男子部講師、女子部講師及び国際科講師を選任し、各部毎に指導計画、実施方法を定めて技術面、精神面にわたり指導した。

(稽古時間及び指導時間)

(本館)

(大阪)

ア. 一般稽古

午後 6:00-8:00

平日	男子	午後 6:00-8:00
	女子	午後 6:00-7:30
土曜	男子	午後 6:00-7:30
	女子	平日に同じ

イ. 少年指導

第1班	午後 4:30-6:00	1部	午後 5:00-6:00
第2班	午後 6:00-7:30	2部	午後 6:00-7:30

ウ. 「形」指導

形研修	毎月1回土曜日	午後 3:30-5:30
	毎週火曜日・木曜日	午後 5:00-7:00

(2) 研修会

道場指導員、学校講道館講師に対し、適宜研修会を実施した。また、道場指導員、学校講道館講師及び柔道高段者の資質の向上と自己研鑽に資する目的で、月1回の形研修を実施した。

(3) 暑中稽古及び寒稽古

暑中稽古は、講道館本館において 10 日間（延参加者数 1,630 名 申込者数 152 名 皆出席者数 102 名）、大阪国際柔道センターにおいて 6 日間（延参加者数 341 名 皆出席者数 17 名）実施した。

寒稽古は、講道館本館において 10 日間（延参加者数 2,232 名 申込者数 328 名 皆出席者数 174 名）、大阪国際柔道センターにおいて 6 日間（延参加者数 534 名 皆出席者数 52 名）実施した。

(4) 紅白試合及び月次試合

修行者の上達度合いを確認し修行の励みとするため、紅白試合及び月次試合を行った。

○月次試合 — 年間 13 回実施し、合計 1,017 名の参加者であった。

○紅白試合 — 年間 4 回実施し、合計 704 名の参加者であった。

春季紅白試合（令和 5 年 6 月 11 日）： 男子 216 名 女子 43 名 少年 20 名 計 279 名
拔群者 男子 1 名（式段→参段）

秋季紅白試合（令和 5 年 11 月 12 日）： 男子 185 名 女子 37 名 少年 29 名 計 251 名
拔群者 女子 1 名（女子初段→女子式段）

大阪前期紅白試合（令和 5 年 4 月 16 日）： 男子 67 名 女子 15 名 計 82 名
拔群者 無し

大阪後期紅白試合（令和 5 年 12 月 10 日）： 男子 74 名 女子 18 名 計 92 名
拔群者 女子 1 名（女子式段→女子参段）

(5) 朝稽古

新たな試みとして朝稽古を講道館本館において、第 1 回は令和 5 年 7 月 5 日から 7 日間（延参加者数 246 名 申込者数 158 名 日次平均 35 名）、第 2 回は令和 5 年 7 月 31 日から 6 日間（延参加者数 483 名 申込者数 228 名 日次平均 81 名）の計 13 日間、実施した。

3. 学校等の柔道指導者による青少年の健全な育成に関する協議会の開催

令和 5 年 8 月 16 日、17 日、徳島県「鳴門・大塚スポーツパーク アミノバリューホール」において、全国中学校柔道大会に先立ち、日本中学校体育連盟柔道競技部の各都道府県専門委員長を対象として、「講道館中学校柔道指導者講習会」を開催した。講習内容は、「中学校柔道指導者に向けて」及び「国際柔道連盟試合審判規定及び国内における少年大会特別規定の解説について」であった。

4. 青少年の健全育成に関する実践報告会及び研究会の開催

- (1) 大阪国際柔道センターにおいて「少年少女柔道錬成発表会」を令和 5 年 6 月 10 日（土）に開催した。参加者は 50 名で、保護者等の参観者が 56 名であった。
- (2) 全日本柔道少年団の各地区代表者会議が、令和 6 年 2 月 12 日（月・祝）講道館において開催された。今回は中学校部活動の地域移行を受けて、日本中学校体育連盟柔道競技部の各地区ブロック長も参加した。講習内容は、「偉人から学ぶ 嘉納治五郎師範の柔道普及戦略～変化や異見を力に変える知恵～」と題した講義、「地域と中学校との交流と実態」及び「柔道人口減を食い止めるために」をテーマとした意見交換会、並びに「精力善用国民体育「柔式」」の実技講習であった。

5. 青少年の健全な育成に関する国内外諸団体との連絡、資料交換及び交流

- (1) 講道館段位推薦委託団体会長会議は、令和 6 年 2 月 27 日（火）講道館において開催し、110 団体中 96 団体の代表が参加した。会議は、今年のテーマである「段位推薦委託団体と講道館との連携強化による更なる普及・振興～柔道修行者の拡大に向けて～」に沿って、講道館各部からの報告事項の説明とそれに関する質疑応答があり、活発な意見交換が行われた。
- (2) 全日本柔道少年団交流合宿（能登半島地震復興支援）は、令和 6 年 3 月 26 日から 28 日までの 3 日間（主催：全日本柔道少年団、後援：講道館）講道館で開催した。これは、令和 6 年 1 月 1 日に発生した、石川県能登半島地方を震源とする地震で稽古する場を失くした子どもたち 37 名を講道館に招待し、全国の柔道少年団が交わり友情を育むことを趣旨とした交流で、子どもたちは講道館をはじめ全国の柔道連盟（協会）からの支援によって新調した柔道衣に袖を通し、石川県出身のオリンピアン・金丸雄介六段の柔道指

導を始め、資料館見学、歴史の講義、レクリエーション、感想文作成など、柔道を通じた楽しい一時を過ごした。

- (3) 国外の段位推薦委託団体である講道館コミッティとの連絡及び交流を積極的に実施した。アセアン諸国とは、日アセアン自他共栄プロジェクトで構築したネットワークを活用し交流を継続した。またオーストラリアとは、指導者を現地に派遣し講道館講習会の実施、また指導者を講道館に招へいしての講道館国際セミナーの実施等を行った。さらに、講道館コミッティの活性化に向けて、ブラジルにも指導者を派遣した。

6. 講習会の開催

(1) 講道館夏期講習会

柔道夏期講習会第一部を令和5年7月17日から22日までの6日間実施した。

柔道夏期講習会第二部を令和5年7月24日から28日までの5日間実施した。

女子柔道夏期講習会を令和5年8月7日から9日までの3日間実施した。

少年柔道夏期講習会を令和5年8月7日から9日までの3日間実施した。

教科柔道指導者講習会を令和5年8月18日から20日までの3日間実施した。

*附属明細書(1)参照

(2) 講道館講習会

柔道のより一層の普及・振興を図るため、本年度も本館から講師を派遣し講道館講習会を実施した。

派遣先は6カ所、講師は8名であった。

*附属明細書(2)参照

(3) 講道館形講習会

“形”の普及・振興を図るため、本年度も本館から講師を派遣し講道館形講習会を実施した。

派遣先は11カ所で、講師は43名であった。

*附属明細書(3)参照

(4) 青少年育成講習会

日本の将来を担う青少年に、講道館柔道の真の理解と、柔道を通した心身の健全な育成を目的とした「青少年育成講習会」を4カ所で実施した。

ア. 滋賀県（守山市柔道スポーツ少年団）

イ. 静岡県（東伊豆柔道会）

ウ. 静岡県（賀茂柔道協会）

エ. 長野県（旭日道場）

7. 柔道指導者の養成及び海外派遣並びに外国人柔道指導者等の受入れ

(1) 柔道指導者の海外派遣について

ア. 本館による短期派遣（1カ国、1名）

イ. 海外柔道連盟等招聘による本館短期派遣（5か国、13名）

ウ. 国際柔道連盟（IJF）アカデミーへの派遣（10カ国、10名）

エ. 海外柔道連盟招聘による本館長期派遣（なし）

オ. 国際交流基金との共催事業による短期派遣（なし）

カ. 本館以外による派遣（全柔連等）（3カ国、3名）

キ. 国際柔道連盟（IJF）関係諸行事及び大会への派遣（11カ国、16名）

ク. 国際視覚障がい者スポーツ連盟（IBSA）関係等諸行事及び大会への派遣（7カ国、10名）

*附属明細書(4)参照

(2) 外国人柔道指導者等の主な受入れについて

ア. インドネシア柔道連盟からの要請で実施したナショナルチームの受入れ

SEAゲームに向けた強化練習（17名）	令和5年3月25日～4月16日
---------------------	-----------------

アジア競技大会に向けた強化練習（7名）	令和5年8月18日～9月21日
---------------------	-----------------

ジュニア女子チーム（大阪、5名）	令和5年11月4日～12月2日
------------------	-----------------

ジュニア男子チーム（8名）	令和6年1月4日～2月2日
---------------	---------------

- イ. SEA ゲームに極の形で参加予定のアセアン各国選手を対象に実施した受入れ
 期間： 令和 5 年 4 月 3 日～4 月 7 日
 参加者： 10 名（ベトナム、ラオス、シンガポール、フィリピン）
- ウ. 全日本選手権大会前後に実施したフランス指導者グループ等を対象とした受入れ
 期間： 全日本選手権大会（4 月 29 日）前後に実施
 参加者： 約 100 名
 内容： 形・技のプライベートレッスン、講義、一般稽古等
- エ. ベトナム形ナショナルチームへの形講習会、昇段試験
 期間： 令和 5 年 9 月 6 日～9 月 11 日
 参加者： 38 名
- オ. 全柔連招へい事業によるウクライナチームの受入れ
 期間： 令和 5 年 9 月 19 日～24 日、10 月 1 日～7 日
 参加者： ジュニア、カデチーム、計 24 名
- カ. IJF アカデミー（指導者養成）
 期間： 令和 5 年 9 月 25 日～10 月 1 日
 受講者： 日本、米国、オーストラリア、ニュージーランド、ベネズエラ、モンゴル、香港、中国、韓国、ブルガリア 計 15 名
- キ. グランドスラム東京後に、大会に出場した選手を中心とした国際合宿を開催した
 期間： 令和 5 年 12 月 4 日～15 日
 参加者： 1 週目は大会に出場した選手を含む 60 か国・地域から 667 名
 2 週目は 41 か国・地域から 383 名が参加
 日本からは 2 週合計で述べ 1600 名を超える選手が参加
- ク. 講道館柔道国際セミナーを実施し、オーストラリアの柔道指導者 14 名を受入れた
 期間： 令和 6 年 3 月 11 日～3 月 16 日
- ケ. 柔道体験等
- | | |
|--------------------------------|-----------------|
| サンディエゴ州立大学（50 名） | 令和 5 年 5 月 19 日 |
| ネブラスカ大学（20 名） | 令和 5 年 6 月 7 日 |
| MESGO 国際大学院プログラム・東京セッション（30 名） | 令和 6 年 1 月 15 日 |
| 外務省在日米軍日本文化体験プログラム（22 名） | 令和 6 年 2 月 28 日 |
| JANESYS 交流プログラム・モンゴル（36 名） | 令和 6 年 3 月 6 日 |
- コ. その他来館者（デモンストレーション、表敬訪問等）
 フランス・エソンヌ - 茨城県柔道ツーリズム（鏡開式 10 名）令和 6 年 1 月 14 日

(3) 国際協力機構（JICA）海外協力隊に関わる事業等

ア. JICA 海外協力隊 課題別派遣前訓練（柔道）を以下の通り実施した。

- ① 期 間：令和 5 年 9 月 18 日～9 月 22 日
 受講者：2023 年度 2 次隊研修生 4 名
- ② 期 間：令和 6 年 1 月 5 日～1 月 9 日
 受講者：2023 年度 3 次隊研修生 1 名
- ③ 期 間：令和 6 年 3 月 18 日～3 月 22 日
 受講者：2023 年度 4 次隊研修生 2 名

イ. 本館における課題別派遣前訓練を終了して派遣されている JICA 海外協力隊員
 令和 6 年 3 月 31 日現在で赴任中の隊員は計 10 名であった。

※附属明細書(5)参照

(4) 柔道器材支援

本年度の柔道器材支援として柔道衣の寄贈、提供はなし

8. 調査研究

「講道館技研究部会」による第 75 回技研究部会を令和 5 年 4 月 17 日（月）に開催し、講道館柔道用語集の再検討を行なった。

9. 図書、雑誌等の編集発行

(1) 雑誌「柔道」

機関誌である雑誌「柔道」(月刊誌)を毎月発行した。内容は、柔道関係者・有識者の巻頭言、館長問答、講道館柔道に関する論説、講道館行事・事業の報告、講道館主催の講習会、国際部短信、国内外の主要大会、科学のページ、全柔連のページ、各地だより、海外だより、学柔連のページ、柔道少年団のページ、昇段者、月次試合、柔道界展望台等であり、広く国内および海外に配付して柔道の普及発展に寄与した。

(2) 講道館柔道科学研究会・研究集会の開催

講道館柔道科学研究会運営委員会によって研究集会を以下の要領で実施した。

日 時：令和6年3月16日（土）16時～17時半

場 所：講道館新館2階教室

テーマ：視覚障害者柔道の現状と課題

司 会：高橋進（大東文化大学・運営委員会副委員長）

講 師：佐藤伸一郎（拓殖大学教授）

10. 文献資料の収集保存及び展示

(1) 資料館

ア. 資料の保存環境の向上

定期的な清掃を行い、資料の保存に適した環境の維持、向上に努めた。

イ. 入館者数 5,701名（前年度比 3,611名増）

国内男性 893名、国内女性 422名

海外男性 2,898名（前年度比 2,375名増）、海外女性 1,488名（前年度比 1,265名増）

資料館の開館時間を11:00～18:30に変更したことが入館者数増加の一因。

総合的学習の一環として来館した学校は以下の12校（事前申請のあった学校のみ記載）

- ・国士館大学
- ・市川市立第二中学校
- ・文京区立千駄木小学校
- ・筑波大学附属大塚特別支援学校
- ・文京区立音羽中学校

ウ. 資料収集の促進 寄贈受入 4点

エ. 大会開催日等における休日開館

実施日：紅白試合（11月12日）、鏡開式（1月14日）

(2) 図書館

ア. 柔道関係の文献・映像資料の収集・保存・提供

蔵書数は和書6,205冊、洋書1,653冊の合計7,858冊となった。

- ① 和 書 55 冊
- ② 洋 書 31 冊
- ③ 映像資料 4 点

イ. 主要な大会プログラムの収集・保存・提供

受け入れたプログラム数 87点

ウ. 逐次刊行物（雑誌・新聞）の受入

① 寄贈

- ・「柔道」講道館、94卷4-12号、95卷1-3号
- ・「月刊武道」日本武道館、2023年4-12月、2024年1-3月

② 購入

- ・「武道学研究」（令和5年度分）
- ・「体育学研究」（ 同上 ）

エ. 柔道に関する調査依頼への対応

問い合わせ件数 50 件（研究者、学生、マスコミ関係者、一般等）
 才、図書館利用者数 255 名（前年度比 86 名増）
 国内男性 105 名、国内女性 22 名、海外男性 108 名、海外女性 20 名

11. 国際大会及び国内大会の開催

(1) 全国柔道高段者大会

令和 5 年 4 月 28 日（金）に開催した。参加者数は、八段 25 名、七段 138 名、六段 360 名、五段 393 名、女子 31 名、合計 947 名であった。なお、令和 5 年から女子の部を新設し、参加資格は女子四段以上とし、31 名が参加した。なお、今年はようやくコロナ禍が落ち着き、昨年と比較して参加者は 224 名の増加となった。

(2) 全日本柔道選手権大会

本館と全日本柔道連盟共催の本大会は、令和 5 年 4 月 29 日（土・祝）に日本武道館において開催した。本大会は、全国 10 地区から選出された計 40 名が出場した。なお、前年度優勝者、準優勝者等の推薦選手は世界選手権代表のため欠場した。

(3) 皇后盃全日本女子柔道選手権大会

本館と全日本柔道連盟共催の本大会は、令和 5 年 4 月 23 日（日）に横浜武道館において開催した。前年度準優勝者等の推薦 2 名と全国 10 地区選出 34 名を合わせた計 36 名が出場した。

(4) 全国少年柔道大会

本大会は、令和 5 年 5 月 4 日（木）合同練成、5 日（金・祝）試合練成を講道館大道場において開催した。全国 46 都道府県から各 1 チーム（東京都は 2 チーム）の 47 チームが参加した。試合は団体戦のみで、3 チームによる予選リーグ（1 枠だけ 2 チーム）を行い、勝ち上がった 16 チームにより決勝トーナメントで優勝を競った。

(5) 全日本柔道形競技大会

本館と全日本柔道連盟による共催の全日本柔道形競技大会は、令和 5 年 6 月 10 日（土）に講道館大道場で開催された。本大会は、投の形・固の形・極の形・柔の形・講道館護身術・五の形・古式の形の 7 種目が行われ、全国の 10 地区代表 69 組、推薦枠 7 組および全国枠 12 組の合計 88 組が出場した。

12. 段位認定

(1) 入門者（外国人を含む）

令和 5 年度の入門者は 16,539 名で昨年度に比べ 1,242 名の増となった。

過去 10 年の入門状況は次のとおりである。

年度	入門者数(名)	前年比(名)	年度	入門者数(名)	前年比(名)
H26	20,881 (男子) 16,927 (女子) 3,954	-762	R元	16,773 (男子) 13,175 (女子) 3,598	-2,002 (-10.7%)
H27	20,386 (男子) 16,400 (女子) 3,986	-495	R2	11,073 (男子) 8,533 (女子) 2,540	-5,700 (-34.0%)
H28	19,689 (男子) 15,879 (女子) 3,810	-697 (-3.4%)	R3	13,593 (男子) 10,350 (女子) 3,243	+2,520 (+22.8%)
H29	21,273 (男子) 16,917 (女子) 4,356	+1,584 (+8.0%)	R4	15,297 (男子) 11,870 (女子) 3,427	+1,704 (+12.5%)
H30	18,775 (男子) 14,819 (女子) 3,956	-2,498 (-11.7%)	R5	16,539 (男子) 12,652 (女子) 3,887	+1,242 (+8.0%)

(2) 外国人入門者

令和5年度の外国人入門者は80(前年度比+22)の国・地域から男子1,087(同+691)名、女子352(同+253)名の合計1,439(同+944)名であった。

(3) 昇段者

令和5年度の昇段者は合計21,352名で昨年度に比べ1,097名の増となった。

過去10年の昇段状況は次のとおりである。

※最高審議会を含む

年度	昇段者数(名)	前年比(名)	年度	昇段者数(名)	前年比(名)
H26	28,406 (男子) 23,413 (女子) 4,993	-1,920	R元	23,238 (男子) 18,790 (女子) 4,448	-1,832 (-7.3%) ※374名
H27	27,988 (男子) 23,061 (女子) 4,927	-418 ※369名	R2	19,274 (男子) 15,314 (女子) 3,960	-3,964 (-17.1%)
H28	26,846 (男子) 22,042 (女子) 4,804	-1,142 (-4.1%)	R3	19,742 (男子) 15,510 (女子) 4,232	+468 (+2.4%) ※341名
H29	28,488 (男子) 23,278 (女子) 5,210	+1,642 (+6.1%) ※389名	R4	20,255 (男子) 15,956 (女子) 4,299	+513 (+2.6%)
H30	25,070 (男子) 20,218 (女子) 4,852	-3,418 (-12.0%)	R5	21,352 (男子) 16,751 (女子) 4,601	+1,097 (+5.4%) ※260名

13. 合宿、講習会、大会等参加者のための宿泊・休憩施設の提供

講道館で柔道の合宿、講習会、大会等が行われる際に、参加者及び指導者・運営役員等に対して新館3階ホステルを安価で提供している。

令和5年度の利用者数は、延総数8,752人であり、令和元年度(新型コロナウイルス感染症の影響前)の延総数9,431人に近い数となった。更なる利用者数の増加が期待される。

【収益事業】

14. 物品販売

柔道関係の書籍・DVD、柔道グッズ等の雑貨、カレンダー等の刊行物を販売した。また、登録商標の使用許諾料収入等も得た。概要については下記の通り。

(1) 書籍

投の形、固の形、極の形、柔の形、講道館護身術、五の形・古式の形、
昇段内規、嘉納治五郎（伝記）、講道館柔道試合審判規定、百三十年沿革史、
嘉納治五郎著作集（一）～（三）、嘉納治五郎（私の生涯と柔道）、嘉納師範に学ぶ、少年柔道指導法

(2) DVD

形：投の形、固の形、柔の形、極の形、講道館護身術、五の形、古式の形
激闘の轍（昭和編）・（平成編）

(3) 雑貨

ネクタイ、タオル、高段者バッジ、段証書用額（大・小）、段マーク、色紙（精力善用 自他共栄）、師範遺訓額（和文、英文付き、和文<小>）、銀製バッジ（ネジ／タックピン）、並バッジ（蝶ピン／ネジ／安全ピン）、絵葉書

(4) 刊行物

カレンダー

(5) その他

講道館マーク使用料 2件
売店手数料収入 1件

15. 貸室・駐車場賃貸等事業

講道館が所有する不動産の一部を店舗、医院、事務所、駐車場等として賃貸した。また、自動販売機等のサービスを有料で提供した。概要については下記の通り。

(1) 貸室

講道館本館 7階	歯科医院
本館 6階	医院
本館 5階	事務所
本館 4階	事務所
本館 2階	事務所
新館 1階	小売店
大阪国際柔道センター 3階	事務所
1階	飲食店

(2) 駐車場

講道館	8台（月極）
	20台（インターネット予約サイト）
大阪国際柔道センター	9台（月極）

(3) 自動販売機、その他（コッカー、コインラントリー等）サービス

事業報告書一附属明細書

(1) 夏期講習会

講習名	受講資格	講習の目的	期間	受講者数 (修了者数)
第1部	男子四段、女子式段以上	柔道高段者の資質の向上	令和5年7月17日～22日	244 (156)
第2部	参段以下の有段者・無段者	柔道修行の基礎の確立	令和5年7月24日～28日	259 (213)
女子柔道	女子柔道修行者	柔道修行の基礎の確立	令和5年8月7日～9日	36 (30)
少年柔道	少年柔道修行者	柔道修行の基礎の確立	令和5年8月7日～9日	124 (110)
教科柔道	柔道指導者及び教科柔道指導者	指導法の学習	令和5年8月18日～20日	33 (30)
計				696名 (539名)

(2) 講道館講習会

	日時	主催	会場	内容	講師
1	令和5年5月 28日(日)	青森県 柔道連盟	青森県総合社会 教育センター	国際柔道連盟試合審判規定 の解説と実技指導	岩村 衡
2	令和5年8月 16日(水)	日本中学校 体育連盟	大塚スポーツパーク アミノバリュー ホール	中学校柔道指導者に向けて	岩渕公一
	令和5年8月 17日(木)			国際柔道連盟試合審判規定 の考え方について	高橋健司
3	令和5年10月 22日(日)	富山県 柔道連盟	アイザック小杉 文化ホール	国際柔道連盟試合審判規定 の解説	岩村 衡
4	令和5年10月 29日(日)	佐賀県 柔道協会	SAGA プラザ総合 体育館	「投の形」及び「古式の形」	松井 熱
5	令和5年12月 10日(日)	札幌 柔道連盟	北海道立総合体育 センター	「投の形」	南保徳双
6	令和6年2月 12日(月・祝)	全日本柔道 少年団	講道館	「精力善用国民体育・柔式」	若松節子
				偉人から学ぶ 嘉納治五郎師範の柔道普及戦略	桐生習作

講道館形講習会

	日時	主催	会 場	講師・形			
1	令和5年4月 9日(日)	四国	ソイジョイ 武道館	投の形	柔の形	講道館護身術	五の形
				山本三四郎	秋山日向子	眞喜志慶治	宇津木俊博
2	令和5年4月 9日(日)	中国	鳥取県立 武道館	投の形	柔の形	講道館護身術	古式の形
				有川勇貴	尾形敬史	向井幹博	宗義明
3	令和5年5月 7日(日)	東北	秋田県立 武道館	投の形	極の形	柔の形	古式の形
				藤中拓馬	南保徳双	内海まゆみ	千葉翠
4	令和5年5月 14日(日)	北海道	北海道立総合 体育センター 武道室	投の形	固の形	柔の形	講道館護身術
				山本三四郎	道場良久	鯫島元成	眞喜志慶治
5	令和5年5月 20日(土)	九州 (北部)	大分県・サイクル ショップコダマ	投の形	極の形	柔の形	古式の形
				大島修次	南保徳双	秋山日向子	松井勲
6	令和5年5月 20日(土)	近畿	大阪・講道館 大阪	投の形	講道館護身術	五の形	古式の形
				有川勇貴	向井幹博	宗義明	宇津木俊博
7	令和5年7月 15日(土)	九州 (南部)	鹿児島	投の形	固の形	柔の形	古式の形
				鯫島元成	小志田憲一	灰原茉美	宗義明
8	令和5年9月 2日(土)	東京	講道館	極の形	柔の形	講道館護身術	
				南保徳双	秋山日向子	眞喜志慶治	
9	令和5年9月 16日(土)	北信越	石川県立 武道館	投の形	固の形	講道館護身術	五の形
				大島修次	山本三四郎	宗義明	小志田憲一
10	令和5年10月 9日(月・祝)	東海	三重県	投の形	柔の形	講道館護身術	五の形
				有川勇貴	永井多恵子	眞喜志慶治	宇津木俊博
11	令和5年10月 28日(土)	関東	埼玉県立 武道館	投の形	固の形	極の形	講道館護身術
				大島修次	眞喜志慶治	向井幹博	宗義明

(3) 海外派遣

- ① 本館による短期派遣
 - 大辻広文
 - カンボジア (SEA ゲーム、会議・大会視察) 令和5年5月11日～5月16日
- ② 海外柔道連盟招聘による本館短期派遣
 - 上村春樹、道場良久、仮屋力、有川勇貴
 - スロベニア (EJU 形セミナー) 令和5年6月12日～6月18日
 - 鯫島元成、大辻広文
 - オーストラリア (OJU 形セミナー) 令和5年8月27日～9月4日
 - 鯫島元成、大島修次
 - ドイツ (ベルリン講道館柔道形セミナー) 令和5年11月2日～11月9日
 - 大辻広文、瀧本誠、岩永憲門
 - オーストラリア (講道館柔道技形セミナー、昇段審査) 令和6年1月18日～1月22日
 - 松井勲、小志田憲一
 - ブラジル (講道館形セミナー、昇段審査) 令和6年3月11日～3月17日
- ③ IJF アカデミーへの派遣
 - 山本三四郎
 - ブラジル 令和5年4月17日～4月23日

○ 有川勇貴 イギリス	令和 5 年 9 月 2 日～9 月 9 日
○ 仮屋力 フランス	令和 5 年 9 月 9 日～9 月 17 日
○ 仮屋力 東京	令和 5 年 9 月 25 日～9 月 30 日
○ 山本三四郎 イタリア	令和 5 年 10 月 9 日～10 月 15 日
○ 真喜志慶治 トルコ	令和 5 年 11 月 6 日～11 月 12 日
○ 小志田憲一 サウジアラビア	令和 5 年 11 月 20 日～11 月 26 日
○ 向井幹博 ドイツ	令和 5 年 12 月 11 日～12 月 17 日
○ 仮屋力 ドミニカ共和国	令和 6 年 1 月 8 日～1 月 14 日
○ 有川勇貴 ハンガリー	令和 6 年 3 月 11 日～3 月 17 日
④ 海外柔道連盟招聘による本館長期派遣 なし	
⑤ 國際交流基金による短期派遣 なし	
⑥ 本館以外による派遣（全柔連等）	
○ 真喜志慶治 モンゴル（東アジアユース競技大会審判員、全日本柔道連盟）	令和 5 年 8 月 16 日～8 月 19 日
○ 真喜志慶治 中国（アジア競技大会審判員、全日本柔道連盟）	令和 5 年 9 月 24 日～9 月 27 日
○ 道場良久 UAE（世界形選手権大会、全日本柔道連盟）	令和 5 年 10 月 28 日～9 月 29 日
⑦ IJF 諸会議及び大会への派遣	
○ 上村春樹、仮屋力 カタール（世界選手権大会、IJF 理事会、大会視察、IJF）	令和 5 年 5 月 3 日～5 月 15 日
○ 平野弘幸 タジギスタン（GP タジギスタン、審判員、IJF）	令和 5 年 6 月 2 日～6 月 4 日
○ 平野弘幸 ウランバートル（GS ウランバートル、審判員、IJF）	令和 5 年 6 月 23 日～6 月 25 日
○ 上村春樹、仮屋力 ハンガリー（ハンガリーマスター、大会視察、IJF）	令和 5 年 8 月 1 日～8 月 9 日
○ 平野弘幸 KSA（世界コンバットゲーム、審判員、IJF）	令和 5 年 10 月 23 日～10 月 25 日
○ 上村春樹、仮屋力 UAE（世界形選手権大会、大会視察、IJF）	令和 5 年 10 月 28 日～10 月 29 日
○ 真喜志慶治 UAE（世界ベテランズ、審判員、IJF）	令和 5 年 10 月 31 日～11 月 3 日
○ 平野弘幸 東京（GS 東京、審判員、IJF）	令和 5 年 12 月 2 日～12 月 3 日
○ 小志田憲一、真喜志慶治 ハンガリー（IJF 審判セミナー、IJF）	令和 6 年 1 月 19 日～1 月 23 日
○ 上村春樹、仮屋力 フランス（GS パリ、大会視察、IJF）	令和 6 年 1 月 31 日～2 月 6 日
○ 平野弘幸 トルコ（GS アンタルヤ、審判員、IJF）	令和 6 年 3 月 28 日～4 月 1 日

(8) IBSA 等諸会議及び大会への派遣		
○小志田憲一 カンボジア (SEA パラゲーム、役員、IBSA)		令和 5 年 6 月 1 日～6 月 7 日
○小志田憲一 オランダ (ヨーロッパパラゲーム、役員、IBSA)		令和 5 年 8 月 6 日～8 月 12 日
○小志田憲一、平野弘幸 イギリス (IBSA ワールドゲーム、役員・審判員、IBSA)		令和 5 年 8 月 21 日～8 月 27 日
○小志田憲一 アゼルバイジャン (IBSA グランプリ、役員、IBSA)		令和 5 年 9 月 23 日～9 月 29 日
○小志田憲一 中国 (アジアパラゲーム、役員、IBSA)		令和 5 年 10 月 23 日～10 月 26 日
○小志田憲一、平野弘幸 東京 (IBSA グランプリ、役員・審判員、IBSA)		令和 5 年 12 月 4 日～12 月 5 日
○小志田憲一、平野弘幸 ドイツ (IBSA グランプリ、役員・審判員、IBSA)		令和 6 年 2 月 14 日～2 月 20 日

(4) 国際協力機構 (JICA) 海外協力隊に関わる事業等

ア. JICA 海外協力隊 課題別派遣前訓練 (柔道) を以下の通り実施した。

① 期 間：令和 5 年 9 月 18 日～9 月 22 日

受講者：2023 年度 2 次隊研修生 4 名	柿澤 史歩 バヌアツ 小原 謙平 コロンビア 門田 優吾 エジプト 横山 智恵 チリ
-------------------------	---

② 期 間：令和 6 年 1 月 5 日～1 月 9 日

受講者：2023 年度 3 次隊研修生 1 名	小川翔太郎 セルビア
-------------------------	------------

③ 期 間：令 6 年 3 月 18 日～3 月 22 日

受講者：2023 年度 4 次隊研修生 2 名	菊地 友輝 ラオス 柳田 明雄 アルゼンチン
-------------------------	---------------------------

イ. 本館における課題別派遣前訓練を終了して派遣されている JICA 海外協力隊員

令和 5 年 3 月 31 日現在で赴任中の隊員は計 10 名であった。

長尾 宋馬	インド
福井 勇貴	ブータン
深井 龍河	エルサルバドル
中村 幸人	チュニジア
大島 繁之	ボツワナ
藤本 大晴	パラグアイ
柿澤 史歩	バヌアツ
小原 謙平	コロンビア
門田 優吾	エジプト
小川 翔太郎	セルビア

令和5年度講道館事業報告 重点項目

○ 総務部

1. 新館7F大道場畠の入替

創立140周年事業の一環として計画していた、新館7F大道場の畠(420.5畠)の更新を令和5年度中に決定し、実際の入れ替えは令和6年4月15-16日に実施した。

2. 設備老朽化対応

設備の老朽化に対応するため、大型案件として防災設備のリニューアルを予定したが、令和6年度実施へ移行した。

○ 道場指導部

1. 大道場の活性化

講道館には、大道場、学校道場、国際部道場、女子部道場、少年部道場、特別道場の6つの道場が存在する。いうまでもなく大道場が講道館の主道場であり、ここにおける活動が世界の柔道の原点になる。そのような意味から、大道場を活性化し、正しい柔道の普及をここから始めなければならない。夕刻の一般練習の他に、大道場での行事、活動は次のとおりである。

令和5年度の参加状況 ※()内は令和4年度

- ・学校講道館生徒 204名(202名)
- ・暑中稽古…参加者 152名(180名)
- ・寒稽古…参加者 328名(223名)
- ・月次試合…参加者 1,017名(1,237名)
- ・紅白試合…参加者 春季 279名(215名)
秋季 251名(205名)
- ・柔道夏期講習会…参加者 第一部 244名(88名) 第二部 259名(84名) 女子 36名(45名)
少年 124名(中止) 教科柔道 33名(33名) 合計 696名(250名)
- ・講道館「形」研修会
- ・実業団合同練習会(女子:金曜日、男子:水曜日)

2. 講習会の充実

講道館の講習会は、①「夏期講習会」、②「講道館講習会(国内・海外)」、③「講道館形講習会」、④「講道館青少年育成講習会」の4つがある。指導者の資質の向上、修行者の柔道基礎の確立、柔道の正しい普及発展、「形」の普及、柔道を通した青少年の健全育成を目的として実施した。令和5年度各講習会の開催状況は、次のとおりである。※()内は令和4年度

- (1) 夏期講習会(講道館本館)…参加者 696名(250名)、修了者 539名(135名)
- (2) 講道館講習会…6回(10回)
- (3) 講道館形講習会…10地区11か所(6か所)
- (4) 講道館青少年育成講習会…4か所(3か所)

3. 外国人修行生の受け入れ強化

コロナ禍が終わり、コロナ以前にも増して多くの外国人が来日するようになり、予想を上回るたくさんの外国人修行生の受け入れを行った。一般稽古では、初めて稽古に参加する外国人修行生には特に配慮し、赤紐を付けるよう指示し、礼法や稽古の仕方等、適切に指導を行った。また、海外の大学生や政府関係者等に対する柔道体験プログラムの受け入れ、外国人グループへのプライベートレッスン、国際セミナー等の開催に尽力した。

○ 審議部関係

1. 入門・昇段者の増加対策

段位推薦委託団体(以下委託団体)に対面で、または電話やインターネットにより昇段審査についての状況を調査し対策を講じた。

(1)各委託団体の現状について

地方における中・高生(柔道部員)修行者の減少が著しい。

少年や女性に対しての講習会や練習会を催している。

(2) 対策について

実技試験の導入することを引き続き助言した。
また、講習会などで受講者・参加者に段位制度についての周知を図った。
※修行者の減少については多角的な視点で対策を取ることが重要である。

2. 昇段者データの活用

要求のあった委託団体（海外を含む）に対してＩＴツールを活用し、積極的に情報提供を行った。

3. 海外からの昇段システムの構築

コミッティ（運営）マニュアルを活用し講習会やオンラインでの会議を行い昇段審査の活性化を図った。
講道館国際セミナーを開催し、昇段審査を行いコミッティの活性化を図った。
柔道夏期講習会第1部では、海外の修行者に対し昇段審査を実施した。

国際部審議会 申請データ

国際部特別審議会：1回開催

国際部審議会：3回開催

*【】は非コミッティ国

コミッティおよび各国柔道連盟				
年間 申請回数	令和5年度 16か国+3：計334名		令和4年度 13か国：計170名	
3回	アメリカ	カナダ	アメリカ	シンガポール
	【スイス】			
2回	ラオス	ベトナム	カナダ	タイ
	オーストラリア			
1回	ネパール	フィリピン	インドネシア	オーストラリア
	ブラジル	シンガポール	ネパール	ニュージーランド
	カンボジア	マレーシア	ラオス	マレーシア
	【メキシコ】	【ブータン】	【チェコ】	【スイス】
	【スウェーデン】	【フィンランド】	【フィンランド】	
	ASEAN コミッティ	【夏期講習会】		
	【IJF】			

4. 令和5年度 入門・昇段者数の報告

入門・昇段者数（割合）推移

	令和5年度	令和4年度	5年平均 (H.29～R.3)
入門者数	16,539名	15,297名	16,297名
昨年比/平均値比	1,242名(8.1%)	242名(1.5%)	
昇段者数	21,352名	20,255名	23,162名
昨年比/平均値比	1097名(5.4%)	-1,810名(-7.4%)	
①初段	15,179名	14,915名	15,823名
昨年比/平均値比	264名(1.1%)	-644名(-4.1%)	
②二段以上	6,173名	5,340名	7,339名
昨年比/平均値比	833名(15.6%)	-1,166名(-15.9%)	

(*平均値:H29～R3)

○ 國際部関係

世界に向けた「自他共栄プロジェクト」を全館体制でさらに推進していく。

1. 海外からの講道館入門者、昇段者の増加のための講道館コミッティ強化

講道館コミッティ（既存 17か国）の円滑運営のための様々な方策を実施する

- (1) コミッティメンバーと連盟役員とのミーティング

→カンボジアで開催された SEA ゲームで ASEAN 各国会長・役員と協議を行った

→オーストラリア会長、コミッティ委員長と対面で協議を行った

- (2) 契約の更新、コミッティメンバーの指名・承認

→9月ベトナムとコミッティメンバーの指名・承認を行った

- (3) 昇段試験実施のための現地への指導者派遣

→オーストラリア（令和5年8月、令和6年1月の2回）

→ブラジル（令和6年3月）

- (4) コミッティメンバー等の講道館国際セミナーへの招へい

→オーストラリア指導者（14名）を令和6年3月招へいしセミナーを実施

2. 講道館国際セミナー等講習会の継続実施

- (1) 講師を派遣しての現地での講習会

→オーストラリア（令和5年8月、令和6年1月の2回）

→ブラジル（令和6年3月）

- (2) 受講者を招へいしての講道館での講習会

→ベトナム（9月）

→オーストラリア（令和6年3月）

- (3) 講習会での昇段試験の実施

→夏期講習会 1部後

○ 図書資料部

1. 書庫・収蔵庫の整理、データベースの再構築

* 資料の整理収蔵を継続している。収蔵庫内資料は、現在約 3400 点調書を探っている。

* 映像資料は、VHS をデータに変換する為の変換器を購入し、今後変換作業に入る予定である。

* 藏書は約 8000 冊ある。新たなデータベースは、資料のみの独立したデータベースとするか、

図書・資料共通のデータベースとするか検討している。

2. 講習会資料の作成

- (1) 令和5年度は以下のパワーポイントによる講習会資料を作成し、講義を行った。

日 時	対 象 者	人 数	講義タ イトル	担当
5月 2日	フランス DOJO アカデミー	30名	嘉納師範の教え	津村
8月 22日	国士館大学地域武道実習	9名	柔道概論	津村
8月 7日	講道館夏期講習会 少年・女子	160名	柔道概論	津村
10月 11日	JUDOS 柔道指導者セミナー	15名	嘉納治五郎師範の生涯と講道館柔道	向井
11月 1日	フランス佐々木光氏柔道チーム	20名	柔道概論	津村
12月 22日	JOC ナショナルコーチアカデミー	24名	嘉納師範の教え	津村
1月 15日	MESGO 国際大学院プログラム	40名	嘉納治五郎師範の生涯と講道館柔道	向井
3月 6日	JSP0 スポーツプログラム	9名	問答について	津村
3月 12日	国際セミナー	12名	柔道概論	津村

- (2) テレビ番組制作等の資料提供と解説

・先人たちの底力「知恵泉」 嘉納治五郎 前後編 (E テレ 解説、再現ドラマ出演)

・おはよう日本「嘉納治五郎の書簡、新たに発見」 (NHK 解説、出演)

○ 編輯部

月刊『柔道』編集・記事内容の見直し

- (1) 講道館機関誌としての更なる充実を図るため、掲載記事および内容の見直し（新規・継続・中止等）を行う。
具体的には、巻頭言・論説・教養講座等の新規執筆者を開拓し、図書資料部と協力して柔道の歴史の発信を強化し、海外や各都道府県からの発信原稿、大会結果等を盛り込む。
- (2) 紙資料として保存している全日本柔道選手権大会写真をスキャンしデータベース化する作業を継続し、雑誌・広報等で活用しやすい形を構築する。

○ 大阪国際柔道センター

運動部活動の地域移行に伴い、講道館大阪がその一拠点としてのモデルケースになるように取り組んでいく。

令和5年度は、女子中学生3名を登録。中体連の試合には、4月に大阪市春季大会、6月に大阪府夏季大会9月には大阪市秋季大会に出場。

登録した3名の内2名が3月に卒業、高校に進学後も柔道部に入部して柔道を続けている。また、本年度は新たに女子2名、男子5名を登録、合計8名で取り組んでいる。